校長室から　ひがしなら通心

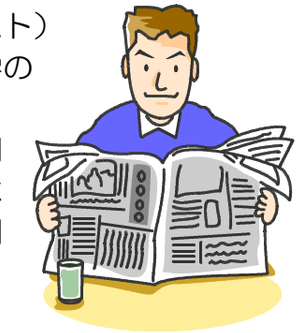
（Ｈ３０年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．１０

平成３０年５月２５日（金）発行

新聞よく読む子、算数も高学力

～２０１６年度学テ調査分析、正答率に明確な差～　ネットニュースより

２０１６年度の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で、新聞を読んでいる児童・生徒ほど、国語、算数・数学の学力が高いことが文部科学省の分析で分かった。



「新聞と学力」の相関が明らかになったが、一方で、新聞を読まない子供が増加傾向にあることも分かった。識者は「児童・生徒は新聞を通して社会のさまざまな課題への関心を持ち、読解力も向上させられる」と指摘している。

●小学国語で９ポイントの開き

全国学力テストの「質問紙調査」で小学６年生、中学３年生に「新聞を読んでいますか」と聞き、（１）ほぼ毎日読んでいる（２）週に１～３回程度読んでいる（３）月に１～３回程度読んでいる（４）ほとんど、または、まったく読まない ―― の４択で回答させた。これらの結果と学力テストの平均正答率を分析した。

ほぼ毎日読んでいる小学６年生の国語Ａ（基礎問題）の正答率は７９．１％。同Ｂ（応用問題）は６４．８％だった。これに対し、ほとんど、まったく読まない児童は、国語Ａが７０．４％、同Ｂは５５．１％で９ポイント前後の差がついた。算数も同様で、毎日読んでいる児童の算数Ａは８３．５％、同Ｂが５４．３％。読まない児童の同Ａは７５．３％、同Ｂは４４．７％だった。

中学３年生も同じ傾向だった。「毎日読む生徒」の国語Ａは８０．３％、同Ｂが７３．１％。同じく数学Ａは６９．４％、同Ｂが５１．９％。これに対し「読まない生徒」の国語Ａは７４．７％、同Ｂが６５．１％。数学Ａは６０．７％で同Ｂは４２．５％だった。

小中学生ともに、新聞をよく読む子と読まない子の差は、総じて正答率で開きが大きく、新聞と学力の明確な相関がうかがえる。

●「読まない」増加傾向

一方、新聞を（ほとんど、または、まったく）読まない児童・生徒は増加傾向にあり、小学生は１６年度が５４．５％と、１３年度に比べて８．６ポイント増加。中学生は６３．５％で同じく８．３ポイント増えた。子供が新聞に触れる機会が減っている（家庭で新聞を取らない等）ことが明らかになった。

●活用続けて読解力向上を

日本新聞協会でＮＩＥ（教育に新聞を）活動を推進する関口修司コーディネーター（前東京都北区立滝野川小校長）は「この結果だけで、新聞を読むことが学力向上につながるという証明にはならないが、新聞を読んでいる児童・生徒が国語にとどまらず算数の学力も高いことは、読解力と算数の相関もうかがえる」と分析する。

その上で、「これからの学習には、根拠を明らかにして説明する学習活動が求められる」と指摘し、「全校を挙げて始業前の時間帯に新聞記事をスクラップし、感想や意見を書くなど新聞を活用する『ＮＩＥタイム』が全国の小中学校に広がっており、読解力向上や読む習慣が身に付くなどの効果が報告されている。日常的に新聞に触れる取り組みを継続することが大切だ」と話している。

◆学力テストの平均正答率と新聞閲読の関係

質問：新聞を読んでいますか

【小学６年生】	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ（％）
ほぼ毎日読む	７９．１	６４．８	８３．５	５４．３
週に１～３回読む	７７．７	６３．３	８２．２	５２．２
月に１～３回読む	７４．０	５９．１	７８．６	４８．０
ほとんど（まったく）読まない	７０．４	５５．１	７５．３	４４．７

【中学３年生】	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ（％）
ほぼ毎日読む	８０．３	７３．１	６９．４	５１．９
週に１～３回読む	７９．６	７２．５	６８．３	５０．５
月に１～３回読む	７７．０	６８．８	６４．４	４６．４
ほとんど（まったく）読まない	７４．７	６５．１	６０．７	４２．５

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール３４　訪問先では、何かをほめよう

だれかの家を訪ねたとき、「すてきなカーテンですね」などと何かをほめるのは、すてきなマナーだ。

●何かをほめることで、きみをもてなしてくれる人への感謝の気持ちを伝えることができる。博物館や美術館などを訪ねたときには、案内役の人に、建物の美しさや設備をほめるといい。